

シリーズ 32 猿ヶ瀬 労苦で築いた地域の輪



猿ヶ瀬区長 石川留治さん (68歳)

■今月の「おじゃまします」——地域情報ネットワークは、八月号でご紹介した久保田地区と県道石瀬・吉田線を挟んで南側に位置する猿ヶ瀬地区におじゃましてみました。

猿ヶ瀬地区は、戸数が十二戸と岩室地区では、白鳥地区に次いで小さな地区です。西側には多宝山がそびえ、地区の周辺が水田に囲まれた静かで穏やかな集落です。

猿ヶ瀬地区といえば、近隣地区同様に農業を中心に栄えてきた集落で、今でこそ、排水整備や基盤整備がなされすばらしい穀倉地帯となりましたが、以前は、ちよつと雨でも降

るとすぐ冠水し、それはそれは苦勞の連続だったといえます。

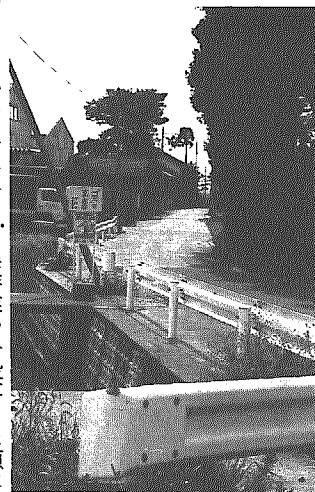
「もう昔話になりますが、当地区の耕地(田んぼ)というと他地区よりも低地だったため、雨でも降ろうものならずぐ水浸しになり、そりやあもう大変だったようです。でも、先代たちの努力の甲斐あって、いまはもう大丈夫です。本来にあの頃は、道路も未整備でしたから、水路に小舟を利用しての農作業の時代でしたからね」と当時の様子を話す区長さん。

本当にここ猿ヶ瀬地区は、土地条件が悪く、その苦勞は大変なものだったといえます。

でも、こうした悪条件があったからこそ、逆に地区民同志のつながりというか団結は他地区に負けない強いものがあるといえます。「うちの地区は、苦勞

続きの集落でしたからこそ、地区民が一致団結し苦難を乗り越えてきました。そんな苦勞を通して築きあげてきた「まとまり」はとてもしっかり、いまもそれがいい形で受け継がれてきているのがうれしいですね」と話す区長の石川さん。

こんな強いつながりを持つ猿ヶ瀬地区。当然のことながら地区民同志の付き合いも良く地区中がまるで親戚同志のようでもあるといえます。そんなまとまりの良さから、昭和五十八年には小集落ながら地区集落開発センタ



県道から眺む猿ヶ瀬地区入口

猿ヶ瀬ミニデータ

(人口と世帯)

人口	男	女	世帯
67人	32人	35人	12世帯

(平成2年10月1日現在)

農作業の一段落した頃に、慰勞と懇親を兼ねて行われているもので、ことしも十八人が参加し和氣あいあいと行われました。

そして「うちの集落は戸数が少なく、ちよつとさみしい感もありますが、その反面、何かをまとまてやるといふ時などは、すぐにもまとまります。ですから、そういう点ではとてもすばらしい地区だと自負しています。それに当地区には、古くから築きあげてきた互助の精神がまだまだ強く残っているというところが、何よりの財産です」と話す区長さんの言葉から、大きな頼もしさが感じられました。



地区コミュニティの拠点として昭和58年に完成した集落センター

新潟県立自然科学館 催物の一案内

▼科学写真展(新潟バード展)

四季の映り変わりとともに変化していく野鳥の生態を、写真やパネルなどをとおして「わかりやすく楽しく」紹介します。▽日時：11月3日(土)～12月9日(日) ▼観覧料：通常の入館料 ▼ファミリーコンサート 県警音楽隊による楽しいコンサートノご家族でお楽しみください。▽日時：11月3日(土)午前11時40分～12時30分 ▼場所：屋外展示場 ▼観覧料：通常の入館料 ▼ステップウオークマン競技大会 階段を昇り降りする手作りロボットのタイムレース ▼日時：11月4日(日) ▼定員対象：小学生以上 ▼参加料：200円 ▼申込み：参加希望者は、10月28日までにお申し込みください。

調査ご協力ありがとうございました

今回の国勢調査には、調査票の記入、回収等にご協力いただきました。調査の結果は、これからの日本を考える基礎資料として役立たせていただきます。